



前橋育英 高校報

建学の精神 ~正直・純潔・無私・愛~

今までも、これからも ~創立50周年に向けて~



CONTENTS

特集 2面



50周年に向けて

インタビュー
群馬育英学園
名誉理事長
中村有三先生

進路・スポーツ実績 3面

保護者会だより 4・5面

育英祭/スポーツレクリエーション
進路講演会/吹奏楽部定期演奏会

同窓会だより 6面

同窓会長挨拶/親子二代同窓生
私の近況報告/退職に際し

後援会だより 7面

後援会長挨拶/総会報告
合同研修会/コラム育英

トピックス 8面



若き日の先生。さて誰でしょう？

SPP/サッカー部インハイ日本一
明石杯英語コンテスト etc...

特集 50周年に向けて

創立者に聞く



—高校を作ろうと思ったきっかけを教えてください。

群馬英数学館で、中学浪人を指導したことです。進学熱に燃える中卒者を受け止める高等学校が少なかった。それと、福井松太郎先生(注:中村有三先生を予備校経営へと導いた大学の先輩)が着手していた無認可の電機学校を各種学校として認可を取ったんです。けれど、結局は高卒の資格

取得にもならない、親も生徒も負い目を持っている。何とか高校を作って

木造校舎の前に立つ中村先生

編入させることは出来ないものかという思いもありました。前橋という地に高等学校が少ないために、進学の夢を閉ざされている生徒が多く、高校創設を我が手でという悲願が生まれたわけです。

ところが、理事会に何度建議しても財政的理由からことごとく否決されて、高校創立の旗を降ろそうかと、あばら家の二階で家内と毎晩悩みました。

—それでも高校を作るという不退転の決意を生んだ信念についてお聞きしたいのですが。

それはビルマでの体験(注:現ミャン

マーへの戦争賠償として経済振興に協力するための養蚕指導)がありますね。そこで養蚕技術を伝えるため、押しつけの教育ではない、寝食を共にすることから始めたわけです。今にして思えば、教育への情熱はこの経験が糸口になっている気がしますね。けれども蚕の先生より人間の先生になりたいという気持ちはあったんですよ。人を育てたいという。



開校式・入学式(1963年)

中学の教員の免許は持ってましたしね。小学校の仮免許も持ってました。しかし、教育実習もやることがないと諦めていたところ、予備校で教育に関わるようになって虫が騒いだんですね。

ただ、いざ高校を作るとなると市議員などから予備校ごときが高校を作るのは生意気だ、とか、理事会もリスクが大きすぎると、反対ばかりするので、逆に闘志は湧きましたね。反発心というか、とにかく挫折と再起を繰り返すなかで、教育に対する夢と理想が消えることはなかったというところでしょうか。

—創始者としての建学の精神、教育理念についてお聞きします。

そもそも「育英」の校名はいわゆる「君子の三樂」から取ったものです。その天下の英才を集めてこれを教育するという孟子の言葉を、英才を集めるんじゃなくて来たものを英才にするというふうに捉えたんですね。誰にも、いいところはある、その良いところを伸ばすという、

幕末、全国に私塾のあった時代は、日本の教育が世界の最高水準にあったことは間違いない。前橋育英高等学校も50周年を迎えようとしている今、原点に立ち返って考えるために、中村有三名誉理事長にお話を伺うことにしました。



校名の由来「天下の英才を得て之を教育す」

万能選手でなくて良いということです。当時の公立高校入試が九教科で、偏差値が高くないと普通高校には受からないという当時の世相に反発してもしました。推薦入試を導入したのも一番早かったですよ。今は他も真似ていますがね。人が持っているはずの隠された能力を発掘することこそ教育の原点だと。

それと、徹底した道義教育をセットと
ふれ無私愛
直際私
中村先生の揮毫による建学の精神
いかに規範として求めたのが初代校長の黒沢先生から紹介された「正直・純潔・無私・愛」のMRA精神運動だったわけです。(つづく)

インタビューを終えて

約70分に渡るインタビューを、あえて一般的にまとめてみると「意志あるところに必ず道あり」ということに他ならぬ



気がします。学園創立者という偉大な存在にいささか親近感を抱いたことが、このファンタスティックなツーショットに表れていますよね。(聞き手:教頭 竹淵 敏)

創立五十周年に向けて

理事長 中村 義寛



前橋育英高等学校は昭和38年に普通科の男子校として創設され、その後様々な曲折を経て、現在は普通科男女共学、4コースと保育科の2学科構成となっております。

行・募金活動などを行う「前橋育英高等学校創立五十周年記念事業実行委員会」を設置し、五十周年に向けての構想を具体化していきます。

四年後に五十周年の記念すべき節目を迎えますが、これを盛大に祝うため、今後、本部・高校を中心として、学園及び高校を支援して頂いている関係各団体と連携をとりながら、記念事業の推進・記念誌の発

行・募金活動などを行う「前橋育英高等学校創立五十周年記念事業実行委員会」を設置し、五十周年に向けての構想を具体化していきます。

まもなく創立五十周年

校長 小茂田 恵三



本校は平成25(二〇一三)年に創立五十周年を迎えます。その記念事業の一環として、平成21年度はテニスコートの人芝張り替えがおこなわれました。さらに、22年度は校舎の耐震化、サッカー場の人工芝張り替え、

1ド面だけでなく、この21年3月に公布された新学習指導要領や、新政権の教育政策に対応した新たな枠組み作りが急務です。そういった中、本校の在校生諸君は吹奏楽部の金賞・サッカー部のインターハイ優勝・硬式野球部の21世紀枠など文武にわたって頑張っています。この成果を来年、さらには五十周年へと繋げていければと願っています。

23年度は第一体育館のリニューアル等の計画が組まれています。進学棟(文化棟)の建設も文武両道の観点から必須の案件です。これらハ

建設も文武両道の観点から必須の案件です。これらハ

スポーツ科学コース 始動!

今年度から、従来の体育科から改組された普通科スポーツ科学コースでは、新たな取り組みが始まっています。それぞれの専門種目のスキルアップはもちろん重要ですが、身体や心のメンテナンスマも専門的に学ぶことで、自らアスリートとしての技術向上に役立てるとともに、将来、社会体育指導者やトレーナーとして社会に貢献するための知識や技術の一つとしていこうとするものです。こうした取り組みはこれからさらに分野を広げていきます。

テーピング講習会



育英メディカル連携講義

保育科 ~高大連携~

育英短大連携講義



保育科においても、育英短大との高大連携が盛んに行われています。育英短大から音楽・美術・保育技術など幼児教育の専門の先生方をお招きして、各学年の習熟度に応じた講義を行います。短大で行われている、より専門的な講義を受けることで、保育科の生徒は将来の目標実現のための意欲がさらに高まります。

進路

過去3年間進路実績

大学合格者数 **1,148名** (現役960名)
 国立大学合格者数 **109名** (現役88名)
 私立大学合格者数 **1,039名** (現役872名)

~きっと見つかる、色んな夢~

今年度から、初めての進路合宿を経験する生徒にとっては不安なことばかりだったと思います。しかし、時がたつにつれてその不安が払拭され、自分にもできるのだという自信に変化していききました。開校式前に書いた感想文には達成感・自己の再発見・受験への抱負など、これからの高校生活を前向きに考えるものが多数あり、この合宿を経験した生徒の今後の活躍が楽しみです。



進路合宿

今年度は昨年までの菅平高原からニューグリーンピア津南新(湯沢津南町)に会場を変更し、七月二十二日(二十五日の三泊四日の日程)で実施しました。目的は一日十時間以上の学習に耐えられる生活習慣を身につけることです。一・二年生併せて八十八名の参加者があり、充実した時間を送りました。内容は一日目の昼食後の開校式から最終日の閉校式まで、食事・入浴・睡眠時間以外は教材に向かつての学習時間という過酷なものでした。一年生を中心に、初めての進路合宿を経験する生徒にとっては不安なことばかりだったと思います。しかし、時がたつにつれてその不安が払拭され、自分にもできるのだという自信に変化していききました。開校式前に書いた感想文には達成感・自己の再発見・受験への抱負など、これからの高校生活を前向きに考えるものが多数あり、この合宿を経験した生徒の今後の活躍が楽しみです。

進路ガイダンス

全校生徒を対象に三年生が六月、一・二年生が十一月に実施しました。一・二年生の大学・短大希望者は、現在の入試環境、動向などを踏まえた講演を聞き、その後学部・学科系統別に分かれて大学の先生方による模擬授業を九十分受講しました。講師は県内の国立大学、私立大学をはじめ、首都圏を中心とした私立大学の先生方です。生徒たちにとって大学の講義時間(九十分)は集中できるかと心配しましたが、講師の先生方が興味深い授業を展開してくださるので、生徒たちはあっと言う間の時間と感じていきました。専門学校希望者は、専門学校の現状についての説明会の後、学科系統別の説明会を二カ所受講しました。就職希望者は、公務員と民間企業に分かれ、試験内容から面接の仕方など、就職試験に關してこと細かく分かる講義を受講しました。一年生に対しては時間を短縮し五十分の講義形式を採用し、職業観育成の一助となるような内容で実施されました。



スポーツ実績

2009 Summer~Autumn

水泳部

群馬県高等学校総合体育大会(水泳) (優勝のみを記載)

男子:学校対抗 総合優勝

*3年連続15回目

- 競泳・50m自由形 角田隼人(2-A)
 ・100m自由形 太田佳吾(1-11)
 ・200m自由形 新井 亮(1-9)
 ・1500m自由形 池田 翔(3-B)
 ・100m背泳ぎ 角田隼人
 ・200m平泳ぎ 正田達成(2-C)
 ・100mバタフライ 齋藤拓之(3-C)
 ・200mバタフライ 池田 翔
 ・200m個人メドレー 正田達成
 ・400m個人メドレー 齋藤拓之
 ・400mリレー(角田→大澤竜也(2-C)→高橋悠真(1-9)→新井)
 ・800mリレー(池田→齋藤→正田→太田)
 ・400mメドレーリレー(角田→正田→齋藤→池田)

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)

- 男子
 競泳・400m自由形 池田 翔 3位
 ・400m個人メドレー 齋藤拓之 3位
 ・800mリレー(齋藤→太田→新井→池田) 8位

関東高等学校水泳競技大会

- 男子:学校対抗 4位
 競泳・池田 翔 400m自由形 2位
 1500m自由形 2位
 ・齋藤拓之 200m個人メドレー 4位
 400m個人メドレー 4位

- ・正田達成 200m個人メドレー 5位
 ・400mリレー(齋藤→池田→角田→新井) 4位
 ・800mリレー(齋藤→池田→正田→新井) 4位

国民体育大会(トキめき新潟国体)

- 少年男子A 出場
 競泳・100m自由形 角田隼人
 ・200m平泳ぎ 正田達成
 ・200mバタフライ 池田 翔
 ・400m個人メドレー 齋藤拓之
 少年男子B 出場
 競泳・50m自由形 太田佳吾
 ・100m自由形 新井 亮
 ・400m自由形 新井 亮
 ・100m背泳ぎ 大野賢也(1-11)



陸上部

全国高等学校総合体育大会

- ・400m 小林優仁(3-A) 3位
 国民体育大会
 少年男子A
 ・ハンマー投げ 石井崇寛(3-B) 6位
 ・400m 小林優仁 出場
 少年男子B
 ・円盤投げ 吉野順也(1-11) 6位

日本ジュニア・ユース陸上選手権大会

- ・400m 小林優仁 2位
 関東高校選抜新人陸上選手権大会
 ・棒高跳び 羽場内克敏(2-A) 4位
 ・やり投げ 高橋 輝(1-11) 8位

県高校駅伝兼関東全国予選

- 畔上翔平(3-4)→生方卓弥(1-5)→原田祐輝(3-A)→櫻井一樹(2-C)→山口慎吾(3-C)→三好慎平(1-10)→須永喬諒(3-C) 3位



サッカー部

- 全国高等学校総合体育大会 優勝
 高円宮杯全日本ユース選手権大会(U-18) ・ベスト16

ウェイトリフティング部

- 全国高等学校総合体育大会
 ・105kg級 舟喜誠生(3-5) スナッチ/ジャック/トータル 優勝
 国民体育大会
 ・105kg級 舟喜誠生 スナッチ/ジャック/トータル 優勝



ボクシング部

- 全国高等学校総合体育大会
 ・フェザー級 高橋一貴(3-6) 出場
 国民体育大会
 ・フェザー級 高橋一貴 出場

テニス部

- 全国高等学校総合体育大会
 女子:団体出場
 ・中東涼子(2-1) シングルス出場
 国民体育大会
 少年女子A
 ・中東涼子 出場



剣道部

- 全国高等学校総合体育大会
 ・田村雅史(2-B) 出場

柔道部

- 全国高等学校総合体育大会
 団体 ・ベスト16
 個人
 ・66kg級 白座康雄(2-B) 出場
 ・73kg級 戸部 隆(2-A) 出場
 ・90kg級 新井真生(3-B) ベスト16
 ・100kg超級 茂木唯文(3-B) 出場

硬式野球部

- 第82回選抜高校野球大会
 ・「21世紀枠」群馬県推薦校



保護者の作品展示



大盛況のうどんコーナー



テーマ「笑顔の革命」

保護者会だより

第21回 育英祭に参加して

育英祭実行委員長 本多礼奈 (2・8)

第二十一回育英祭は、校内発表、一般公開ともに秋晴れのなか開催することができました。

私たち実行委員は、テーマのように育英祭が笑顔で満ち溢れ、関わった全ての方々の日常に良い変化が起ることを願って活動しました。私自身初めての育英祭で、時には仲間とぶつかり合うこともありましたが、その悪戦苦闘の日々を通して自分自身の中に「革命」とも呼べるような、大きな心情的変化を感じています。皆様には私たちの気持ちが届きましたでしょうか。

生徒全員がそれぞれの思いを込めた今回の育英祭。私はこの二日間を通じて、育英生を含むたくさんの方々の笑顔に出逢うことができました。ですからきつと、成功だったと言えるでしょう。最後になりますが、この成功の影でサポートして下さった先生方、バザーの物品の提供をして下さった保護者の皆様など、様々なか



一番人気のバザー会場

総務副委員長 上星 浩子

十月三十一日に開催されました「育英祭」におきまして保護者の方々には日用品や衣服、新鮮な野菜等、多数の物品を提供していただきありがとうございました。

また文化祭当日も多数ご来場いただき、物品の購入等ご協力いただいたことに心よりお礼申し上げます。

皆様のご協力をもちまして大成功のうちに終えることができました。二五四、〇一〇円の収益が得られました。これは生徒の教育環境向上のため有効に活用させていただきます。今後とも育英高校の保護者会活動にご理解、ご協力をよろしく願います。

たちで第二十一回育英祭に携わって下さった全ての方々に心から感謝いたします。

バザー報告とお礼



恒例スポーツレクリエーション交流会開催!

総務副委員長 岡田 賢司

この《スポレク》の目指すところは、遊びを通じて皆さんとの親睦を図りたい!!という、子供心のような単純なものです。

内容は「ソフトバレー」と「ユニカール」と言う2種類のゲームに参加者全員で楽しめます。2種目ともに小学生から高齢者の方までが幅広く容易に参加出来るように考案されていて、誰もが簡単にプレー出来るとともに、かなり笑えるゲームです。

今回、初めて参加させていたいただき解ったことは、普段スポーツからは遠ざかっていた私でも容易にプレーに参加することが出来たこと、加えてとても簡単なルールで、お世辞抜きに楽しいイベントでした。

皆さん!たまには自分の体のためにも(筋肉が脂肪に置き換わりつつある己の霜降り)筋肉を動か(笑)、爽やかな汗をかきましよう!!

来年も皆さんの参加をお待ちしております。

恒例スポーツレクリエーション交流会開催!

この《スポレク》の目指すところは、遊びを通じて皆さんとの親睦を図りたい!!という、子供心のような単純なものです。

内容は「ソフトバレー」と「ユニカール」と言う2種類のゲームに参加者全員で楽しめます。2種目ともに小学生から高齢者の方までが幅広く容易に参加出来るように考案されていて、誰もが簡単にプレー出来るとともに、かなり笑えるゲームです。

今回、初めて参加させていたいただき解ったことは、普段スポーツからは遠ざかっていた私でも容易にプレーに参加することが出来たこと、加えてとても簡単なルールで、お世辞抜きに楽しいイベントでした。

皆さん!たまには自分の体のためにも(筋肉が脂肪に置き換わりつつある己の霜降り)筋肉を動か(笑)、爽やかな汗をかきましよう!!

来年も皆さんの参加をお待ちしております。

ボクシング教室突撃レポート

文化副委員長 五十嵐 早苗

湯本先生、阿部先生、澤野先生率いる、前橋ボクシング教室を覗いて見ました。

この日は小学生男子、社会人学生さんが先生方の指導の下、真剣な表情でいい汗をかいていました。初めてリングに上がらせて頂き、思った以上に高く広く感じました。先生方の熱のこもった指導には、頭の下がる想いでした。楽しそうにやっていた皆さんを見て、私の中のボクシングのイメージが完全に変わりました。危



険ではなく、楽しいという事。女性も参加していて美容にも効果あり!水曜の夜六時からボクシングジムを覗いてみませんか? 問い合わせは学校へ。



「第59回全国高P連大会」に参加して

総務委員長 小椋 靖晃

八月二十六日から二十八日まで全国高P連沖縄大会に参加させてもらいました。全国ということでも多くの人

数が集まりますので五つの会場での開催でした。

地元の高校生の空手や沖縄のエイサー踊りなどの発表があり、沖縄という地域の風流さを感じさせる発表で、この大会を行うにあたり大勢の関係者や発表校の練習や準備が大変だったということがわかるくらいの大盛況な大会でした。表彰式や講話などもあり終了しましたが、まだまだ自分の知らない事がたくさんあり、大勢の人が学業の発展に努力をしていることに気づき、勉強になり充実した参加になりました。

進路講演会

進路指導委員長 武田美津子

去る八月八日、本校視聴覚室において、本校進路アドバイザー 武井敏男先生を講師にお迎えし、「現在の高校生を取り巻く進路環境」をテーマに講演会が開催されました。揺れ動く社会情勢の中、子供達の進路に対し不安を抱かれています。多いのではないのでしょうか。参加者約二五〇名という数字はその現れの様にも思います。

そんな思いに武井先生は暖かく、時にはユーモアを交えた答えを下さり、講演会は終始和やかな雰囲気の中進められました。

この様な保護者参加の講演会は新たな情報に触れる事の出来る貴重な機会です。これからも多くの方の参加をお待ちしております。



吹奏楽部 第36回定期演奏会を終えて

指導者

熊井 正之

去る十月十日、前橋市民文化会館で第三十六回定期演奏会を開催致しました。当日は八〇〇名を超える方々にご来場頂き、盛大な演奏会となりましたが、これもひとえに皆様方のご理解とご協力の賜物であると感謝申し上げます。

さて、本校吹奏楽部はこの演奏会を最後に三年生が引退し、二年生を中心とした新体制の下、新たな船出を果たしました。今年度の成果である吹奏楽コンクール県代表や、マーチングコンテスト出場、そして今回の定期演奏会の成功。これらは引退した三年生が部活に並々ならぬ情熱を持っていたからこそその成果であり、同時にその情熱に後輩たちが応えたからこそその成果であると確信しています。

学校生活の大半を楽器に捧げている彼らの熱意を今後も汲み上げつつ、皆様に認めて頂けるような音楽作りと、部員一人ひとりの人間性の向上を目標に、これからも日々の練習に励んでいく決意でおりますので、今後ともご声援宜しくお願い致します。

吹奏楽部後援会会長

井上 貴美枝

去る十月十日、前橋市民文化会館大ホールに於いて、第三十六回定期演奏会を開催致しました。この日は前橋まつりと重なっていたにもかかわらず、八〇〇名を超えるお客様に足を運んで頂き、とても盛大な演奏会を行う事ができました。演奏会終了後、お客様方から「今日来て良かったです。」「素晴らしい演奏会でした。」「等の言葉を沢山頂き、演奏会の成功を実感致しました。今年度は、福祉施設での慰問演奏や全国高校総合文化祭での運営補助員を務めたり、群馬県コンクールでは見事金賞を受賞し、西関東大会出場を果たしました。そしてマーチングコンテストにも挑戦し、貴重な経験をする事ができました。秒刻みに組まれているタイムスケジュールを一人一人自分の役割を責任持つてこなしていく姿、四十三人が一つになって演奏している姿に感動し涙しました。

これも熱心に御指導して下さいました先生方、OB・OGの皆様、学校保護者会皆様のお蔭と心より感謝しております。

中毛地区高P連

総務副委員長 荻野 眞弓

十月二十日、生涯学習センターにて開催された研究協議会では他校の行事、進路・生活指導に関する一歩踏み込んだ取り組みを知り、改めて保護者と学校とが力を合わせる中で生徒達の自己教育力の向上を高める事を学びPTAの係わり方の重要性を感じました。生徒達による意見発表では高校生とは思えぬ様な研究テーマの実現、学校生活を生き生きと過ごす毎日の取り組みに頭が下がる思いでした。子どもとしっかり向き合い敏感に支える育英保護者会でありたいです。

前橋祭り生徒指導

生徒指導委員長 和泉 実千江

十月十日の前橋祭りの巡視はお天気にも恵まれ、校長先生、教頭先生他、多くの先生方と保護者の方々の参加で無事に行う事が出来ました。街の中を三班に別れ、生徒の服装の乱れは無いが、子供達にとって危ない事や場所は無いかを見ながら巡回を行いました。最後に全員で反省会を行い、生徒達に何事も無かった事を確認して解散しました。

第十四回 合同研修視察旅行

保護者会会長 高橋 すみ江

十一月十四日、十五日の二日間、学校後援会、同窓会の先輩方と保護者会、先生方と学園バスにて合同研修旅行に行っていました。

今回は東京の文化に注目し、美術館や博物館巡りなどや、国の登録有形文化財の見学と、日頃あわただしく出向く東京の歴史と文化の優美な調和にふつと足を止め、ゆっくりと感じる時間を持つてました。

又、育英高校の先輩方の元気で明るいエネルギーに現役も見習って一層頑張っていこうと思える旅でした。



前橋育英

雄渾

同窓会
だより

風雪に耐え

同窓会長 関根 映一
(第1期生・昭和40年度卒)



同窓会員の皆様、お元気でし
ようか。日頃より前橋育英高校
の発展の為、御尽力を賜り心よ
り御礼申し上げます。振りかえ
つてみますと、昨年の秋、突然
アメリカでのサブプライムロ
ーン問題に端を発し、世界中、
同時不況におちいり、我が国も
百年に一度の大不況になり、景
気の低迷に拍車がかかり、先が
みえない経済状況が続いてお
ります。本年夏衆院議員選挙以
来、我が国の政治が毎日毎日の
様に激変しつづつあります。ニュ
ース報道をみるたびに、国民は
不安から安逸をめざす姿をじ
つくり見つけていると思います。

この様な時代背景の中、我が
母校も本格的な少子化、高齢化
の到来を迎え、色々なコースを
再編し努力しております。本年
度特筆すべきは、県総体におい
て17回目5年連続男子総合優勝

インターハイでサッカー部が
優勝、ウエイトリフティングで
舟喜君が優勝したことです。な
により11月14日付上毛新聞報
道で硬式野球部「21世紀枠」に
推薦され、本当に嬉しく、素晴
らしい事であり、その陰には辛
い厳しい練習の積み重ねがあ
ったと思います。又、母校同窓
会員の先生の退職(吉田、三川、
平澤)各先生方の御努力にも感
謝を申し上げます。

「霜に打たれた柿の味、辛苦
に耐えた人の味」この様な人生
を歩みたいと考えております。

親子二代同窓生 母校の応援に熱が入ります

父 (第17期生)
息子(第46期生)

縁あって私の長男も前橋育英
高校に進学し入学説明会に出席
いたしました。卒業後、25年ぶり
に母校を訪れ、長男と校門をくぐ
り校舎に入りとても懐かしく感
じました。又、様々な思い出がよ
みがえって参りました。説明会で
は、私が在籍中にお世話になっ
た先生方の健在な姿を拝見し、と
ても嬉しく思いました。母校での3
年間で多くの友人と出会うすば
らしい先生方の指導のもと楽し
い高校生活を送ることができた

ことを心よりお礼を申し上げます。
高校卒業後、自動車整備専門学校
へ進学し、自動車の基礎知識を2
年間学び卒業後整備士の資格を
取得し、自動車ディーラーにて10
年の整備の経験を経て現在は北
関東を中心に50店舗を展開する
カー用品の専門店に勤務してい
ます。私どもの会社でも母校の卒
業生が立派に活躍しています。母
校の話して盛り上がることもし
ばしばで、特にサッカー、野球の
活躍は素晴らしい、卒業生として
嬉しく誇りに思い応援にも熱が
入ります。

最後になりますが、前橋育英高
校の益々の発展と皆様様の活
躍を心よりお祈り申し上げます。
※ご本人のご希望により匿名と
させていただきます

私の近況報告

シンガーソングライター
高橋 李枝(第35期生)

3年生で女子ソフトボール部を引
退し、当時憧れていたバックダンサ
ーの夢に向かって走り始めたあの頃
お気に入りだったかわいい制服そつ
ちのけで、私はいつもカエル色の体
育着ジャージを愛用していました。
第一体育館の2階にひっそりとな
る鏡の前で、同じ夢を持つ親友と一
緒に、先生から許可が下りるギリギ
リの時間までダンスの練習に明け暮
れた日々。その後高崎にあるダンス
スクールに通いました。
二度経験した文化祭ではカラオケ



大会に率先して出場、歌って踊って
優勝させてもらったにして、今思う
と大好きな仲間にもまれ、大好きな
ことしかしていない!? 本当に気楽
で充実した日々でした。
バックダンサーの夢を叶えてから
は、なんだかそれだけでは終われな
い気持ちで更なる目標を探しました。
私の気持ちと表現できる術、それ
は歌うことでもありました。
20歳過ぎた頃、幸運にも結婚式場
で歌うお仕事させていただき、200
回を超える貴重な現場で場数を踏み、
人の作った歌ではなく自分の気持ち
を音楽にしたいという気持ちが強く



育英祭のミニライブ

なり、シンガーソングライターとい
う職業に行き着いた訳です。それが
今の私です。
先日行われた育英祭で10年ぶりに
体育館のステージに立たせていただ
いた私は、思わず涙がほろりと落ち
てしまいました。決して華々しい大
成功を遂げたわけではありませんが、
大好きなことを10年間続けてこれた
ことを褒め称えてあげたい気持ちに
なりました。思うようにいかなくて
悔しい思いも、失敗や間違いも、今だ
にしている私ですが、育英高校に通
うことで夢をスタートすることが出
来たから：本当に「ありがとう」の気
持ちでいっぱいです。
立ち止まりそうな時、この思いを
励みにこ
れからも
邁進して
いきたい
と思いま
す。感謝。



デビューシングル「ありがとう」

育英祭「同窓生の部屋」 開催記

今年度の育英祭にあたり、同
窓会事務局では新しい試みとし
て「同窓生の部屋」を開設しまし
た。これは、育英祭で本校を訪れ
る同窓生の皆さんに、高校生時
代を大いに懐かしんでもらうと
いう企画です。
当日は、保護者会作品展展示を
行う教室を半分間借りし、歴代
校長先生や昔の校舎の写真など
の資料を掲示し、学習机と椅子
を並べて休憩ができるスペース
を設けました。また、卒業期別に
専用の大学ノートを用意し、同
期生や先生方にメッセージを残
してもらえようという工夫もして
みました。

今回は初めての開催であり、
事前のPRも不足していたため
か、残念ながら入場者は僅かで
した。しかし、来場した同窓生の
方々には昔話などで楽しんでい
ただけました。
今回の育英祭では準備万端整
えて臨み、もつと多くの方々の
ご来場を期待しています。二〇
一一年の育英祭では、ぜひ「同窓
生の部屋」にお立ち寄りください。
事務局長 武田雅彦



「生徒に感謝」
退職に際し
保健体育
新井 信雄

同窓会紙「雄渾」の歴史と共に歩いて参りました、好
評企画「親子二代同窓生」と「私の近況報告」ですが、今
後更にご多くの方にご参加頂きたく、同窓会員の皆様より
直接原稿を募りたいと考えております。自薦他薦
は問いませんので、「あの人は今何を?」「私の自慢」の
ような紙面に仕上がれば何でも結構です。郵送、メール
で直接原稿と出来ればお写真をお送り下さい。
akutsu-h@maebashiikuei-h.ed.jp まで

後援会だより

芸術文化は人に元気を与える

前橋育英高等学校
後援会会長



前田 勇

群馬の森が紅葉に彩られる頃、芸術の秋を感じる。私は(社)企業メセナ群馬理事長として、十一月八日群馬県美術展オープンに臨み、それ

平成二十一年度・前橋育英高等学校 後援会定期総会開く

今年度総会は、七月三日六時より「ウエルシティ前橋」三階、秋桜の間で開かれました。当日は、後援会役員始め学校関係、保護者会本部の方々多数出席、事業報告や会計決算、新年度の計画、予算、新役員の選出・承認と和やかなうちに議事が進行了ました。なお、新役員の構成につ

から群馬県美術会田中会長様のご案内で日本画・洋画・彫刻・工芸を見学させて頂きました。年々作品がレベルアップして、素晴らしい力作揃いであるとのことでしたが、特に今年は六十回記念とあって、作家の熱意と想いが伝わり、感動の連続でした。芸術の秋と云えば、今年の前橋育英高校の合同研修旅行を十一月十五日に実施しましたが、今回はこれまでの優秀高校の視察から趣をかえて、東京都内の芸術

いては前田勇会長はじめ現在の役員は再任とし、新たに保護者会から高橋すみ江会長を後援会副会長に、他の保護者会副会長さん七名の方を、後援会常任理事とする提案が承認されました。また、日常の会務を執行する運営委員として二十名の方々を選出・承認されました。後援会の活動の目的は、

文化施設等の見学といたしました。国立西洋美術館では、古代ローマ帝国の遺産と題して「栄光のローマ」と「悲劇の街ポンペイ」が紹介され、又市民の豊かさを、当時作られた彫刻・絵画・工芸品から感じられました。又目黒の雅叙園では百段階段の各部屋の絵画の美しさと、丁度、假屋崎吾生花展が開催されており、またので観賞のチャンスを得ました。天才華道家の絢爛たる「美」の空間にふれて、元気を与えられました。芸術文化の美しさは、人に元気を与え、その元気を子ども達に伝えることによつてこそ、今回の研修旅行の真の意義があったのではないのでしょうか。

会則第三条で「本会は、前橋育英高等学校の建学の精神に賛同し、本校卒業生の将来と私立高校の果たす役割の重大さを認識し、その使命達成と本校の発展に寄与することを目的とする。」とあります。今後も学校創立五十周年に向け、本校の教育内容向上のため、援助協力に力を尽くしたいと思えます。

学校創立50周年に向け更なる協力体制を —学園協力の6団体による 合同研修旅行実施—



校の視察を目的としていましたが、今回は都内文化施設や催しを見学し、知識教養を広めると同時に、平素学校の運営や支援に関わっている皆さんが、意見交流、親睦を深める研修旅行となりました。国立西洋美術館や江戸東京博物館、目黒雅叙園等を巡りながら、品川プリンスホテルに一泊しました。ホテルで、またバスの中で四年後に創立五十周年を迎える「前橋育英高等学校」の姿に話の花が咲きました。

日頃、高等学校の教育活動を支援している後援会、同窓会、保護者会、学園協力会、退職教職員会、学園本部、学校関係者の皆さんで、去る十一月十四日、十五日の両日、研修と親睦を兼ね東京方面への旅行を実施しました。前年度までは、主として先進私立高

後援会表彰制度について

後援会会則第四条(五)の二では、高校生活で優秀な成績を収めた生徒に対する表彰基準が定められています。運動部関係では、全国大会での優勝や国際大会出場など特に顕著な活躍が認められた時、その他人命救助やボランティア活動で特に功績があった時等です。今年度分については、今後検討。選考の上、表彰を行う予定です。

「文武両道の校風を」

育英高校サッカー部の、全国総体初優勝の快挙。県勢としても初めてのことであり、日頃の精進が実ったものと思う。更に、正月の国立目指し頑張つて欲しい。そして、耳新しいニューースとして、育英野球部が県高野連から春の甲子園大会「二十一世紀杯」として推挙された。野球部は、これまで今一歩というところで涙をのむというケースが多かったが、その実力は誰しも認めるところである。「二十一世紀杯」というのは、只単に強いだけでなく、地域での活動、学校内外での生活、高校生らしいプレー等、他校の模範となるチームが選ばれる。今回二度目の推薦であるが、今後十二月四日の関東理事會を経て、十五日の発表。正式には来年一月二十九日に出場校が決まる。近年、育英高校のスポーツ、文化部の活躍は目覚ましいものがあるが、その意気は必ずや勉学面にも効果が表れるものと思う。学習進学面も含め、県内私学の雄として「文武両道」の校風を一層高めていけるものと期待したい。

(S記)

Science Partnership Project (文部科学省主催)

研究Ⅰ 薬物代謝と細胞内レセプター～24時間体制のセキュリティーシステム～

東邦大学と連携、7月27～30日、本校及び東邦大学にて実施。

代表的な薬物代謝酵素であるCYPの働きと細胞内レセプターに関する講義を受けた後、細胞内レセプターにおける異物認識から薬物代謝酵素の誘導までの過程の実験を行った。また、薬物投与によるCYP発現誘導機構を分子生物学的な手法により観察した。実験終了後、結果を発表し、ディスカッションを行った。

● 1年1組 設楽 沙月

講義は、日頃考えたことのない内容だったので、知らないことばかりだった。自分の体の中でどのようなことが起こっているのかを学ぶ良い機会だった。講義をその場で理解するのは難しく、翌日は不安な気持ちを抱えた状態で東邦大学に向かった。しかし、実験を始める前の講義で内容が見えてきて、その後の実験でより理解を深めた。どの実験も初めての経験で興味深いものばかりだった。初めてのSPP、初めての大きな実験で貴重な体験ができた。



研究Ⅱ 人類 恐るべき土壌菌との戦い～生きて、生きて、生き抜くために～

国立感染症研究所と連携、8月3～12日、本校にて実施。参加者は全員、実施前に予防接種が義務づけられた。

講義では、土壌に生息する病原体全般の知識、さらに破傷風菌について、発見の経緯や性質、病気の症状や治療法、予防法、毒素の作用機序など、人類が如何にこの菌に対して闘ってきたかの歴史を学んだ。実験では、自分たちの住む環境の土壌を採取し、土壌菌を培養して、その中から破傷風菌を分離できたかどうかを顕微鏡観察と動物実験により調べた。実験終了後、結果を発表し、ディスカッションを行った。

● 3年6組 河島 郁乃

講義から実験まで、土壌菌という自分たちの身近にあるものについて学習した。自分たちは破傷風菌について知識も乏しく、どれほど危険なものかも曖昧



だった。しかし、しっかり知識をつけておく事が大事だと思った。知識があるだけで気持ちの持ち方や対処法などが変わってくるからだ。今回講義で破傷風菌について学び、実際に自分で菌を取り扱うことによって破傷風菌を身近に感じる事ができた。また、実際にマウスに接種して観察する時は、自分たちにも起こるかもしれないと思うととても怖くなった。このような発見には動物実験が欠かせないこともわかった。彼らの犠牲の上に私たちの健康が成り立っていると思うと、感謝の気持ちでいっぱい。だから、この犠牲を忘れて生きていきたいと思う。さらに、自分たちの身近に危険な菌があることにも意識して生活していきたい。

● 成果発表会のご案内

SSH・SPP等合同成果発表会

●日にち 平成22年3月13日(土)

●場所 群馬音楽センター(高崎市)

白石杯 高校生英語コンテスト

予選会2年連続1位!



(左) 瀬間さん (中) 森下さん (右) 岡田さん

昨年、白石杯高校生英語コンテストのスピーチ部門で見事に優勝し、県No.1としてアメリカ研修にも参加した森下朋香さん(普通科3年)は、今年も前橋支部予選を堂々の1位通過!また、レシーション部門では瀬間二紗さん(普通科1年)が1位、岡田璃奈さん(普通科2年)が6位に入賞し、2つの部門あわせて3人が本大会出場を決めました。

スポーツエアロビクス 世界大会

2年連続優勝!

アメリカ・ラスベガスで行われたスポーツエアロビクス世界大会のAGE GROUP 2(15歳から17歳)部門のトリオにおいて、神尾藍里さん(普通科2年)が優勝!! 昨年の同大会に続いて2年連続の世界一という快挙を成し遂げました。



映画「虹の街」に出演

映画「虹の街」(制作:わたしがつくるわたしの舞台実行委員会)において、立川祐希君、鈴木康祐君(ともに普通科1年)が市内の高校生を対象としたオーディションで選ばれ、出演が決定しました。キャスト、スタッフ・撮影をすべて前橋で行う「純度100%前橋映画」。2010年2月公開予定です。(無料)



ウエイトリフティング部

全国選抜インターハイ団体完全優勝! 舟喜誠生君(普通科3年)が新潟で行われた国民体育大会105kg級において、スナッチ・ジャーク・トータルすべて第1位の完全優勝!これで全国選抜インターハイ・団体と高校三冠の達成です。次の目標は日本代表そしてロンドン五輪です!



サッカー部

インターハイ初優勝! 2009近畿まほろば総体

サッカー部、ついに悲願の全国制覇です。これまでいくつもの大会で全国の頂点まであと一歩というところで、何度も悔しい思いをしてきた育英イレブン。しかし、ついに今年の夏のインターハイにおいて、全国優勝を達成しました。さあ次は、冬の全国高校サッカー選手権です。



全国高校サッカー選手権 群馬県大会4連覇

サッカー部監督 山田 耕介

全国高校サッカー選手権県予選準決勝、前橋商業戦は、相手の体を張った気迫あるプレーに何もできなく前育サッカーを發揮できなかった。いろいろな理由があると思われるが、この反省を生かし決勝に臨んだ。決勝のKEY WORDSは「ビルドアップ」「リスタート」「攻守の切り替え」であった。選手は前育のサッカーを徹底してやってくれて、ボールを大切にしながらゲームに全員が関わるサッカーをしてくれた。結果、8名が得点したように、チーム全員で勝つことができた。

高円宮杯全日本ユース(U-18) サッカー選手権大会 ベスト16

Jリーグのユースチームなど全国屈指の強豪がしのぎを削る高円宮杯。本校サッカー部は、横浜Fマリノスユース・ヴィッセル神戸ユース・コンサドーレ札幌ユースとの強豪クラブチームとの厳しい予選リーグを通過し、2次ラウンドに進出しましたが、ラウンド16で三菱養和FCと対戦し、惜しくも敗退。ベスト16となりました。



一カ月後、全国大会が始まる。初戦は香川西、相手は強豪である。1月2日埼玉の駒場スタジアム14時10分キックオフです。皆様応援よろしくお願いたします。



編集後記

保護者会文化副委員長 石原佐和子

合同紙広報委員

合同紙に寄せられた原稿のどれも前橋育英高校を応援し盛り上げようとする気持ちがギュッと詰まっていました。活気ある育英生の活躍には素晴らしい感動があります。こんな思いの詰まった合同紙の編集、校正に関わったことを嬉しく思います。どうぞこの合同紙を読まれる方々に情報と感動が伝わりますように...



「特集・50周年に向けて」に合わせ、懐かしい写真を掲載しました。表紙右下の3枚は(左から)中村先生・校長先生・新井先生の若かり頃のお写真です。